

MoboGothic / MogaGothic / MogaMincho

MoboGothic / MogaGothic / MogaMinchoは、IPA Font / M+ FONTS OUTLINEをベースにしたTrueType和文フォントです。JIS X 0213:2004の第3~4水準までの総てを実装し、JIS X 0208:1990にも切り替え可能な本格派です。

OpenTypeの字形切り替え機能(OpenType Feature Tag)、Unicodeの異体字切り替えIVS(Ideographic Variation Selector)に対応しており、切り替えできるグリフと拡張B領域の漢字(Unicode U+20000以降)を外字領域にも収録しています。

3種類のバリエーションから選んで頂けます。

--- MoboExGothic

「モボゴシック」は、M+ FONTS OUTLINEにIPAゴシックの漢字を組み合わせ、ウエイトや位置合わせ、および調整を行ったものです。JIS2004/JIS90の別、等幅・半角のみプロポーショナル、Regular/Boldの別、計8種類を自由に使い分けられます。
MoboExGothic

「モガゴシック」は、IPAゴシックをベースに、調整を行ったものです。これも8種類のフォントを自由に使い分けられます。
MogaExGothic

「モガ明朝」は、IPA明朝をベースに、調整を行ったものです。これも8種類のフォントを自由に使い分けられます。
MogaExMincho

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	丈一辰自へ
加幾久計己	倆俾僕儻儻
左之寸世曾	儼矣浴凡劔
太知川天止	劉勗勵斗卓
奈仁奴禰乃	去良叱吉咄

ABCDEFGHIJKLMNOP
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789,!.?;:"#\$%&
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深いか山間に埋もれた。名高い棧も、鶯のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも峻嶒な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやってくる河の水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	丈一辰自へ
加幾久計己	倆俾僕儻價
左之寸世曾	儼矣浴凡劔
太知川天止	劉尅勳斗卓
奈仁奴禰乃	去良叱吉咤

ABCDEFGHIJKLMNOP
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789,.,!?:;" # \$ % &
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。名高い棧も、藁のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも峻岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやってくる河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	丈一辰自へ
加幾久計己	倆俾僕儻儻
左之寸世曾	儼矣浴凡劔
太知川天止	劉尅勵斗卓
奈仁奴禰乃	去良叱吉咄

ABCDEFGHIJKLMNO
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789, !?;:” # \$ % &
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのままにか深い山間に埋もれた。名高い棧も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも峻岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやってくる河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	丈一辰自へ
加幾久計己	倆俾僕儻價
左之寸世曾	儼矣浴几劔
太知川天止	劉尅勳斗卓
奈仁奴禰乃	去良叱吉咤

ABCDEFGHIJKLMNO
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789, !?;:” # \$ % &
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのままにか深い山間に埋もれた。名高い棧も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも峻岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやつて来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	ㇿㇿㇿㇿㇿ
加幾久計己	𠂇𠂇𠂇𠂇𠂇
左之寸世曾	𠂇𠂇𠂇𠂇𠂇
太知川天止	𠂇𠂇𠂇𠂇𠂇
奈仁奴禰乃	𠂇𠂇𠂇𠂇𠂇

ABCDEFGHIJKLMNO
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789.!?:;"#\$%&
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深いか深い山間に埋もれた。名高い棧も、蕨のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも嶮岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやってくる河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

木曾路はすべて山の中 である。あるところは岨

あア愛

あいうえお	アイウエオ
かきくけこ	カキクケコ
さしすせそ	サシスセソ
たちつてと	タチツテト
なにぬねの	ナニヌネノ

安以宇衣於	丈ノ辰自ハ
加幾久計己	働働働働働
左之寸世曾	働働働働働
太知川天止	働働働働働
奈仁奴禰乃	働働働働働

ABCDEFGHIJKLMNO
 abcdefghijklmnopqrstu
 0123456789.!?:;"#\$%&
 A B C D E F G H I J K
 a b c d e f g h i j k
 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9,

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。

東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのか深いか深い山間に埋もれた。名高い棧も、藁のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補つた。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも嶮岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやってくる河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に

底本：「夜明け前 第一部（上）」岩波文庫、岩波書店
1969（昭和44）年1月16日第1刷発行

底本の親本：「改版本『夜明け前』」新潮社
1936（昭和11）年7月発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、
大振りにつくっています。

※「ポルトガル」は、第二部ではすべて「ホルトガル」と表記されている
ので、「ポルトガル [#「ポルトガル」はママ]」としました。

入力：菅野朋子、小林繁雄

校正：高橋真也

2001年5月24日公開

2004年2月10日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、

青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制
作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。